

資料 3. シンポジウム/ワークショップ実施風景記録

第 3 部 ワークショップ



第 3 部 ワークショップ発表風景

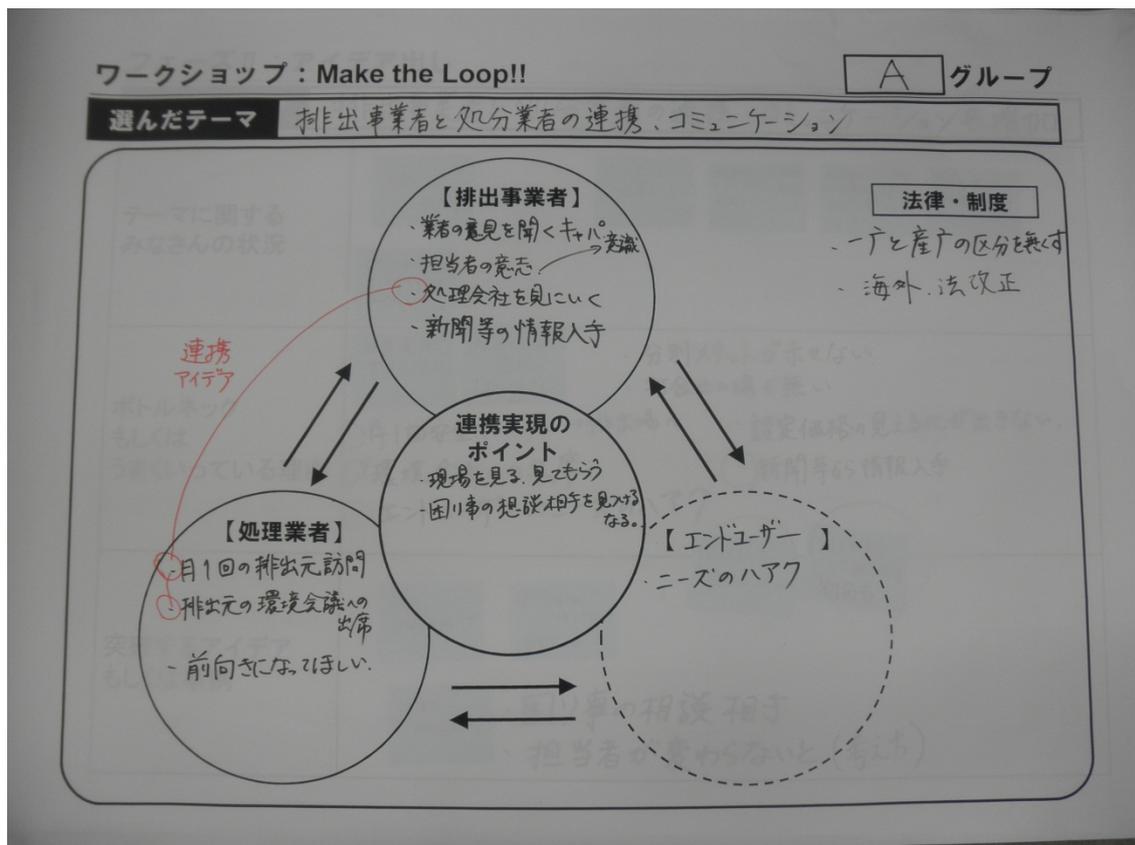


第 3 部 総評



資料 4. ワークショップアウトプット (グループ発表時資料のみ)

東京 / グループ A



東京 / グループ B

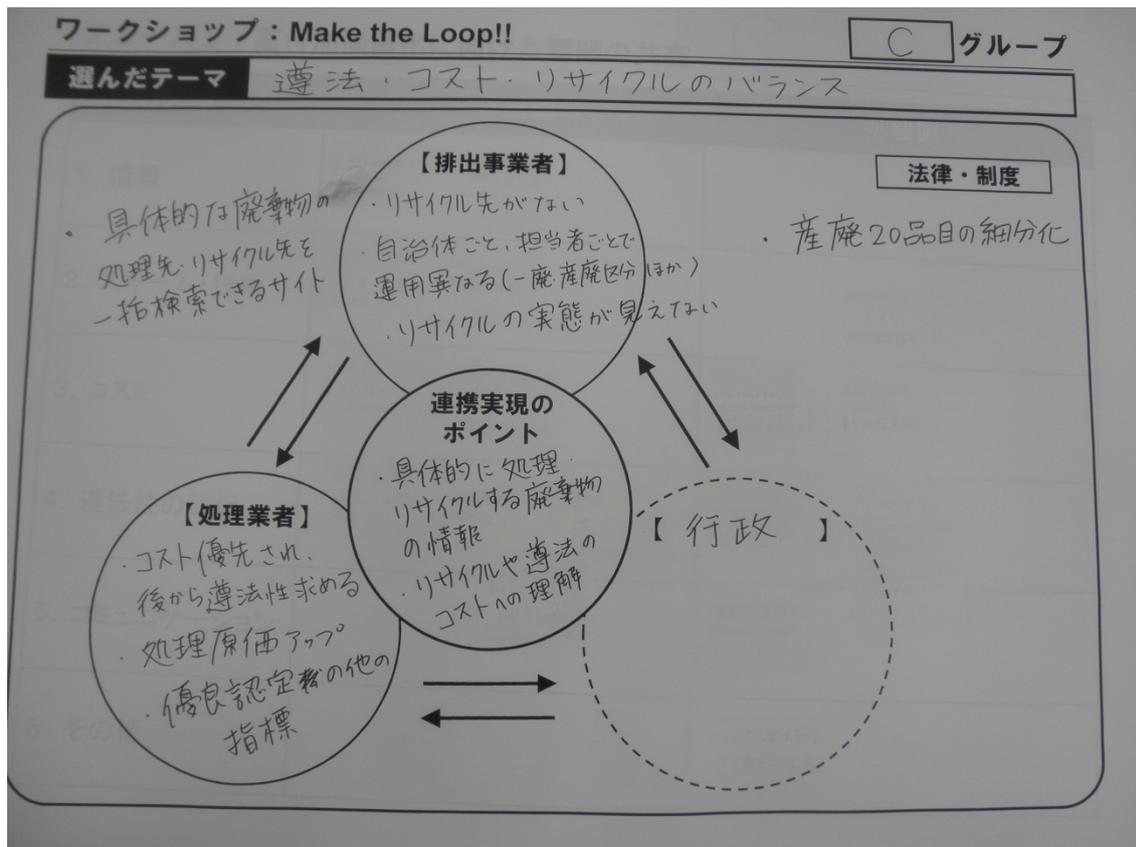
B フェーズII : アイデア出し

選んだテーマ 广薬物排出の最適化、高付加価値化に向けて

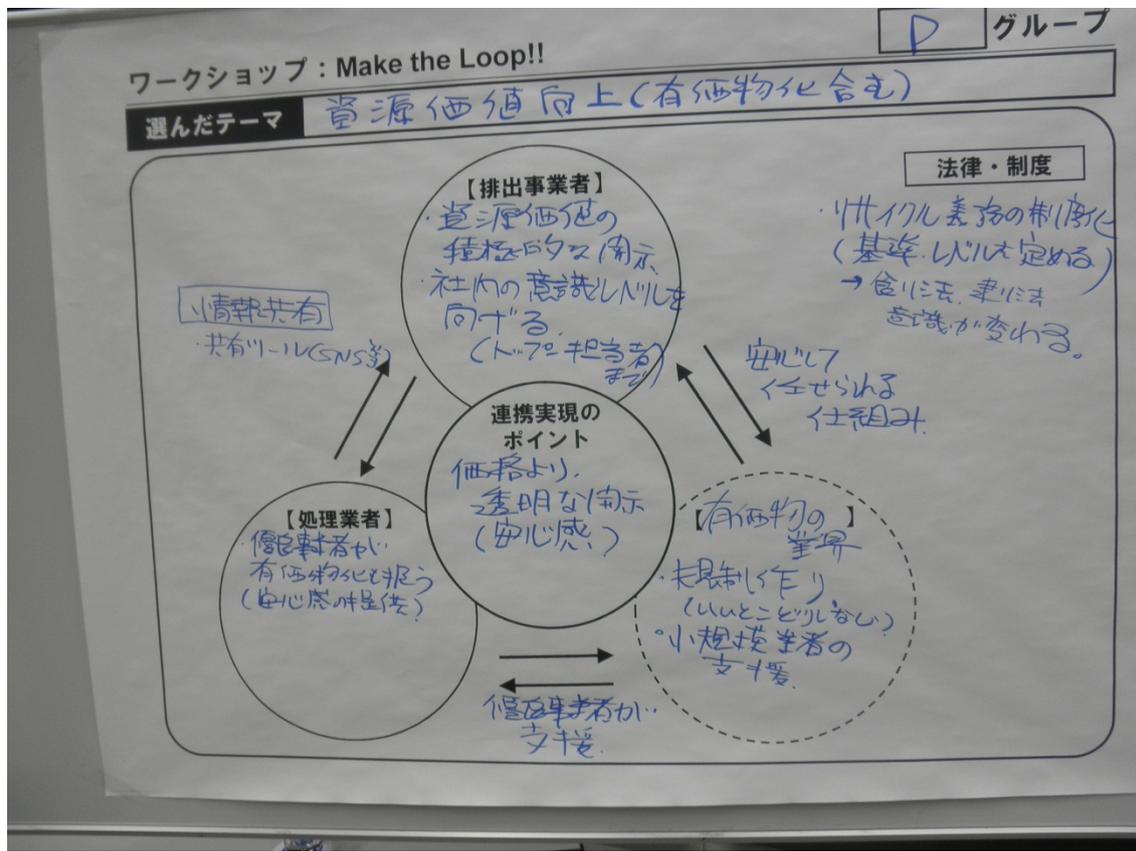
テーマに関するみなさんの状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 分別種類を減らしている。工場は増やして ② 广液を高純度のまま广棄している。(買値が高) ③ 研究開発の广液成分が不明。 ④ 上流に戻す努力(2R)をすすめている。
ボトルネックもしくはうまくいっている理由	<ul style="list-style-type: none"> ③ ③ 試薬購入費 < Rコスト、回収コスト、分析ヒ ① 分別する手間、人件ヒ、スペース確保が負担大。 ④ リサイクル品を積極的に利用。
突破するアイデアもしくは事例	<ul style="list-style-type: none"> ② ③ 广液分析ヒは、排出部門が負担する。 ① ④ 分別等の役割分担の最適化のため、十分にコミュニケーションをとる。(現地確認の活用等)
その他	

資料 4. ワークショップアウトプット (グループ発表時資料のみ)

東京 / グループ C

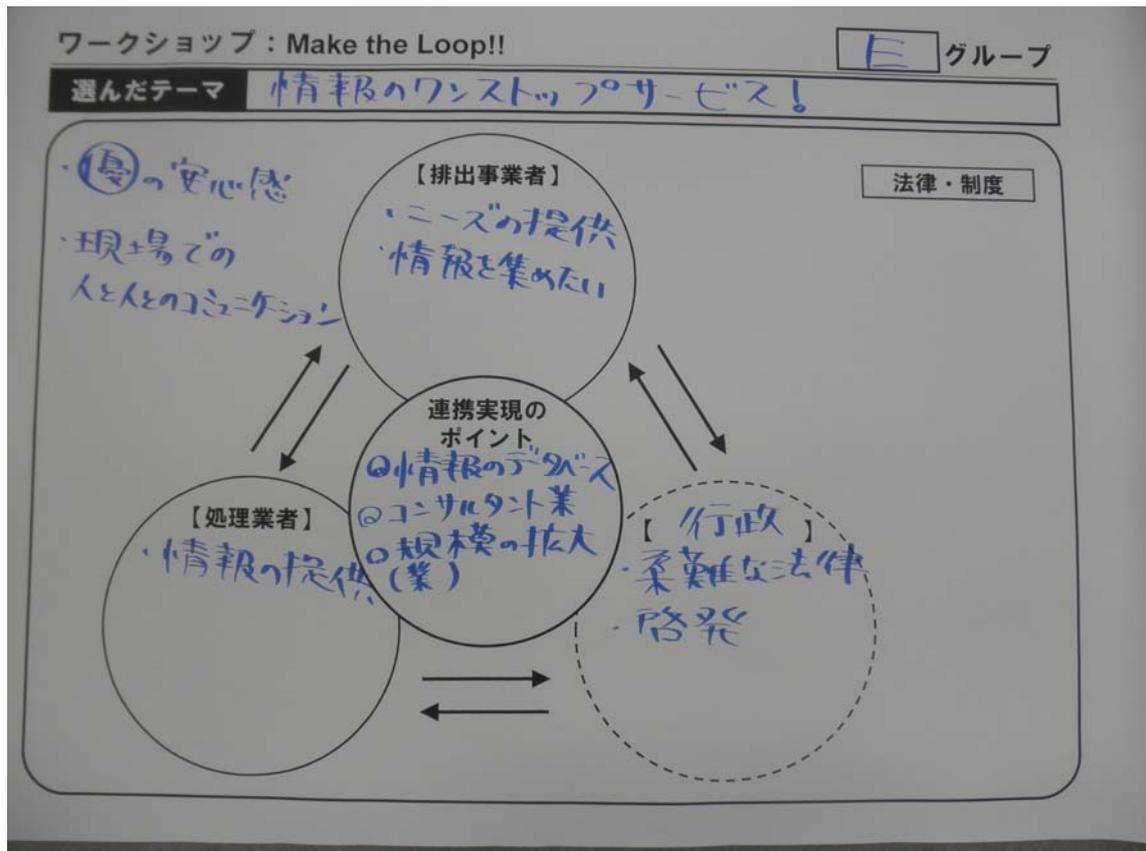


東京 / グループ D

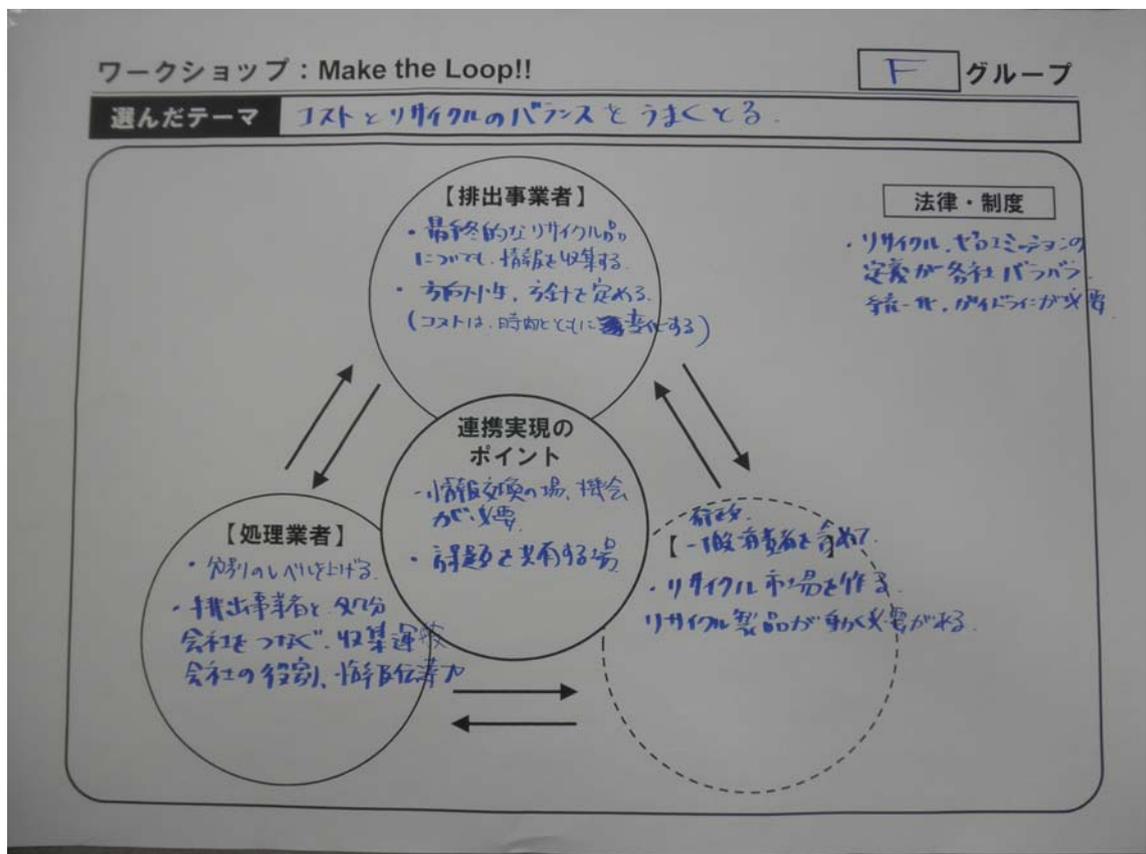


資料 4. ワークショップアウトプット (グループ発表時資料のみ)

東京 / グループ E

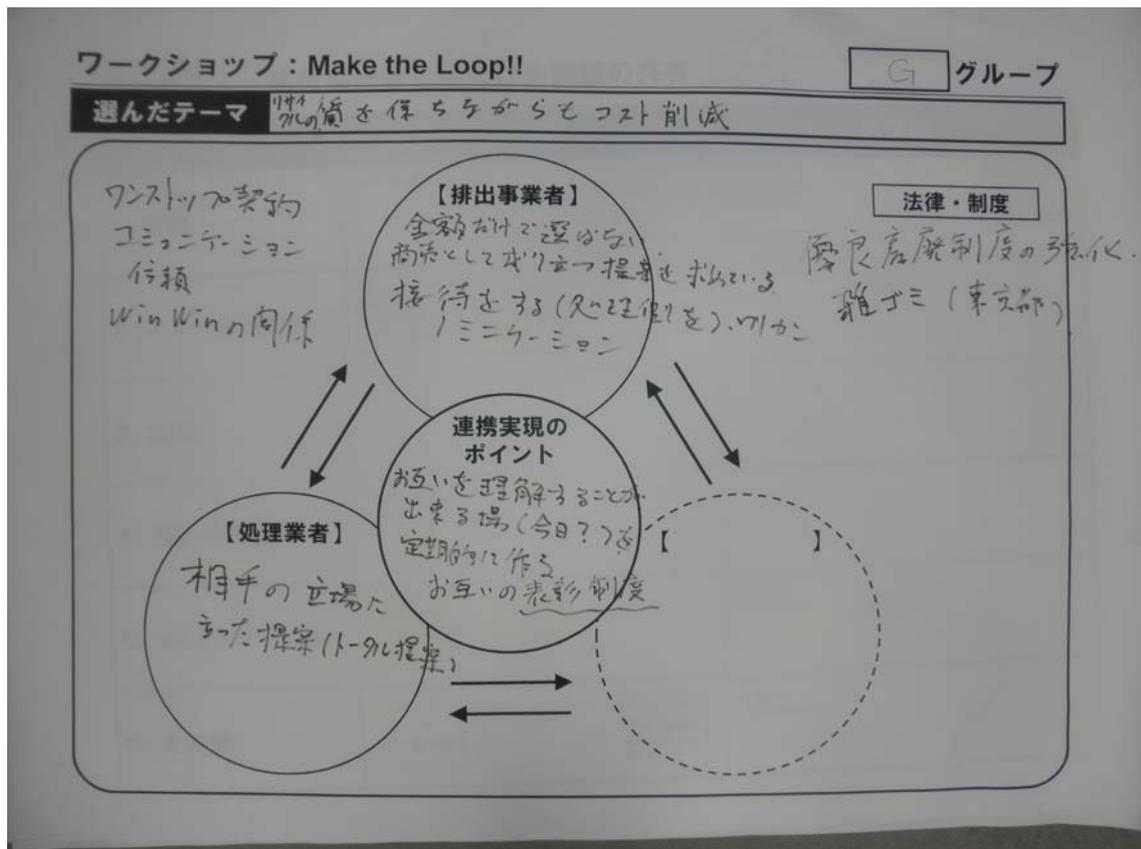


東京 / グループ F

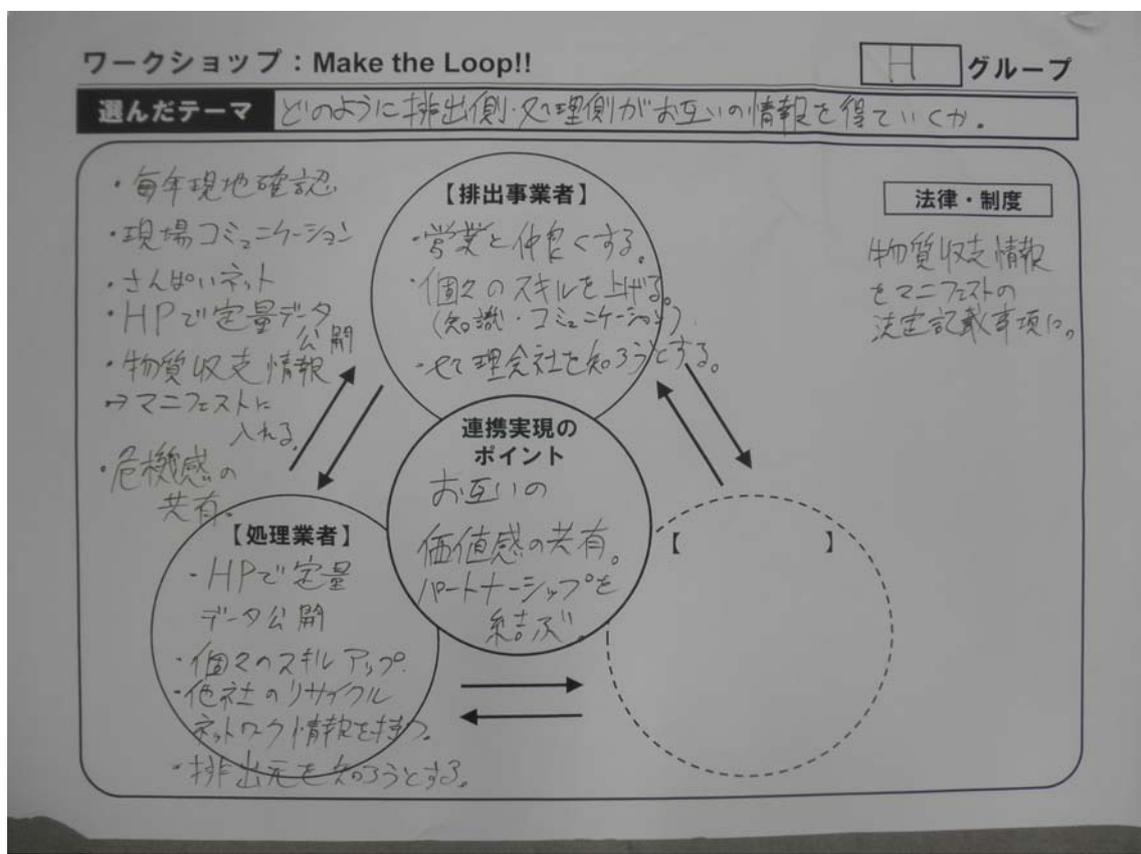


資料 4. ワークショップアウトプット (グループ発表時資料のみ)

東京/グループ G

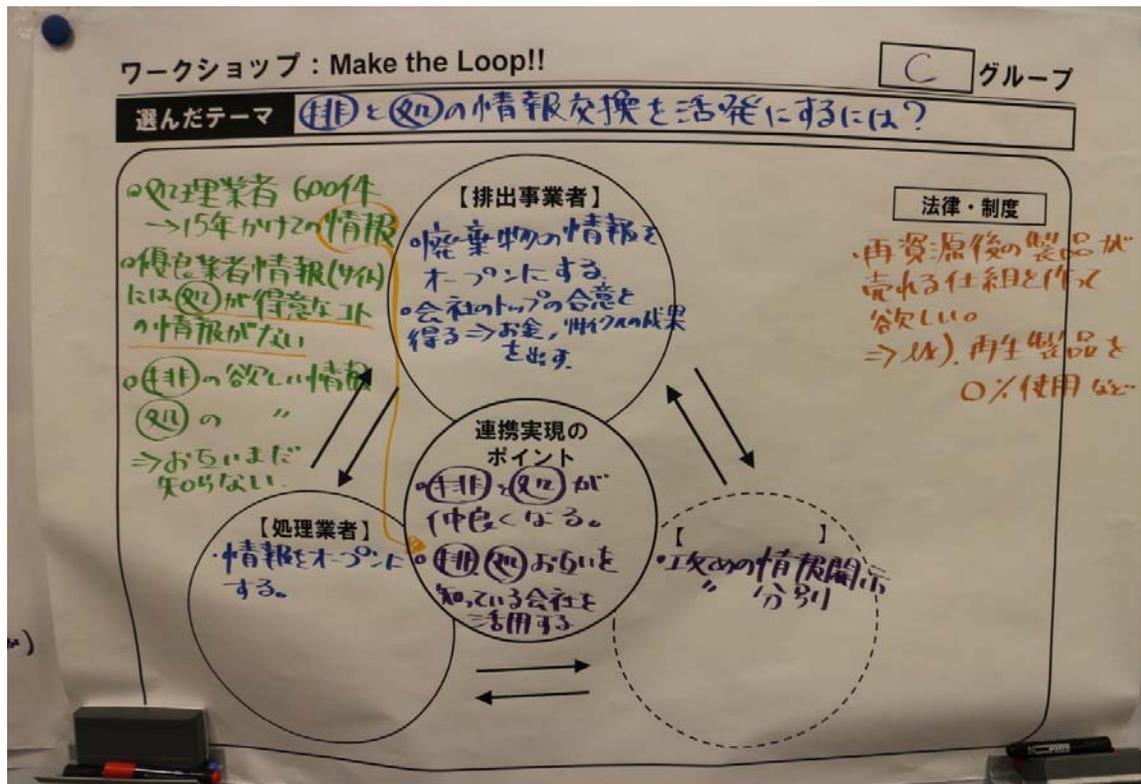


東京/グループ H

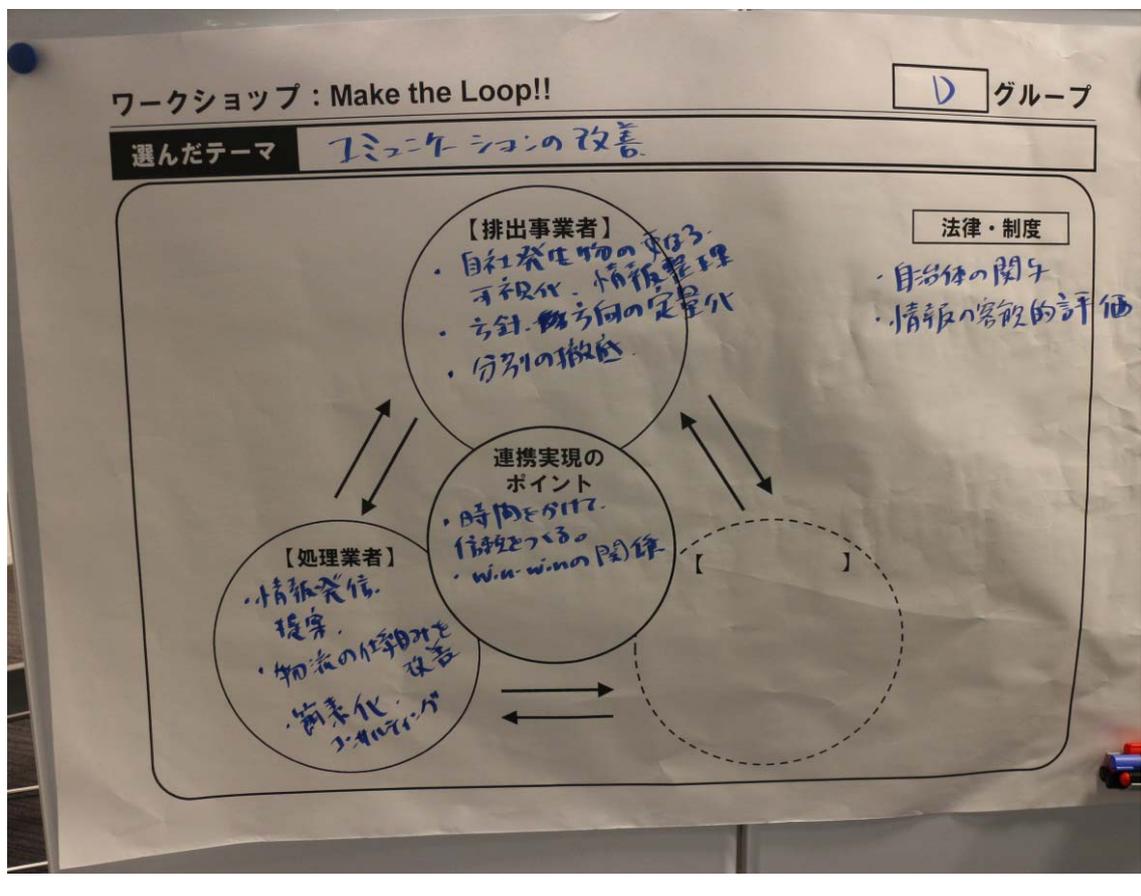


資料 4. ワークショップアウトプット (グループ発表時資料のみ)

大阪 / グループ C

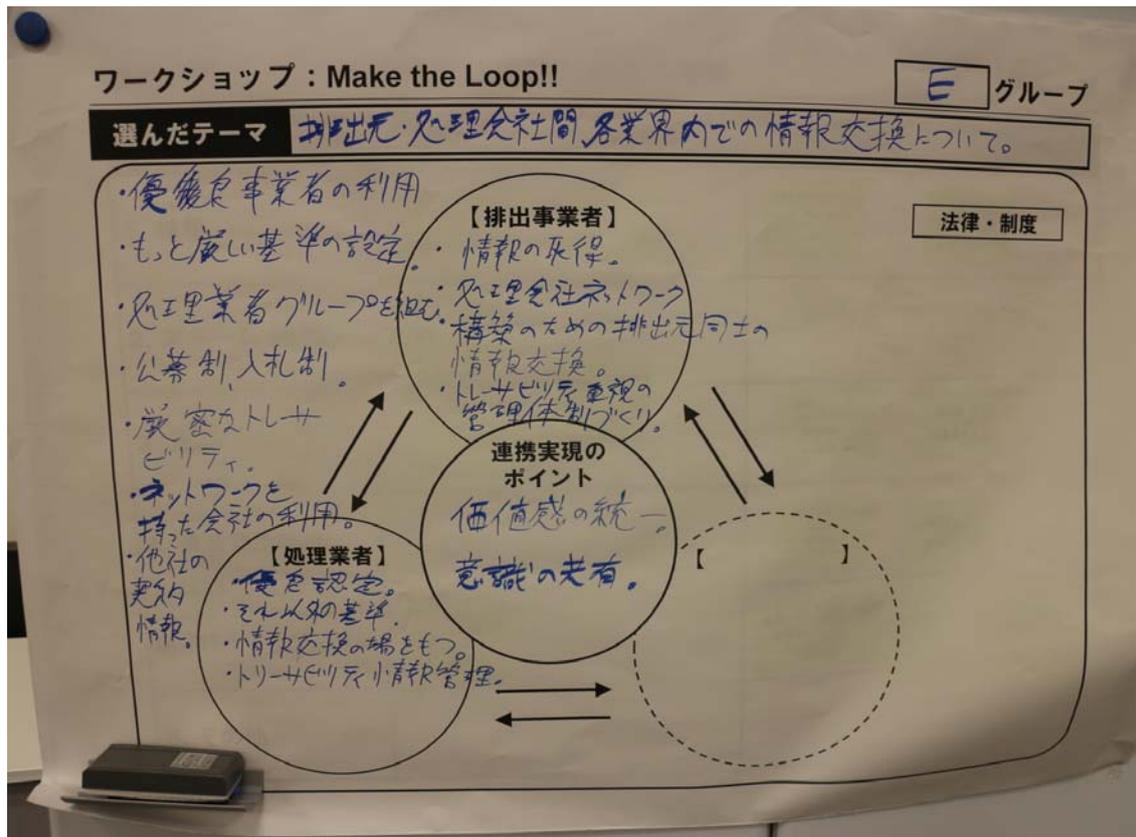


大阪 / グループ D

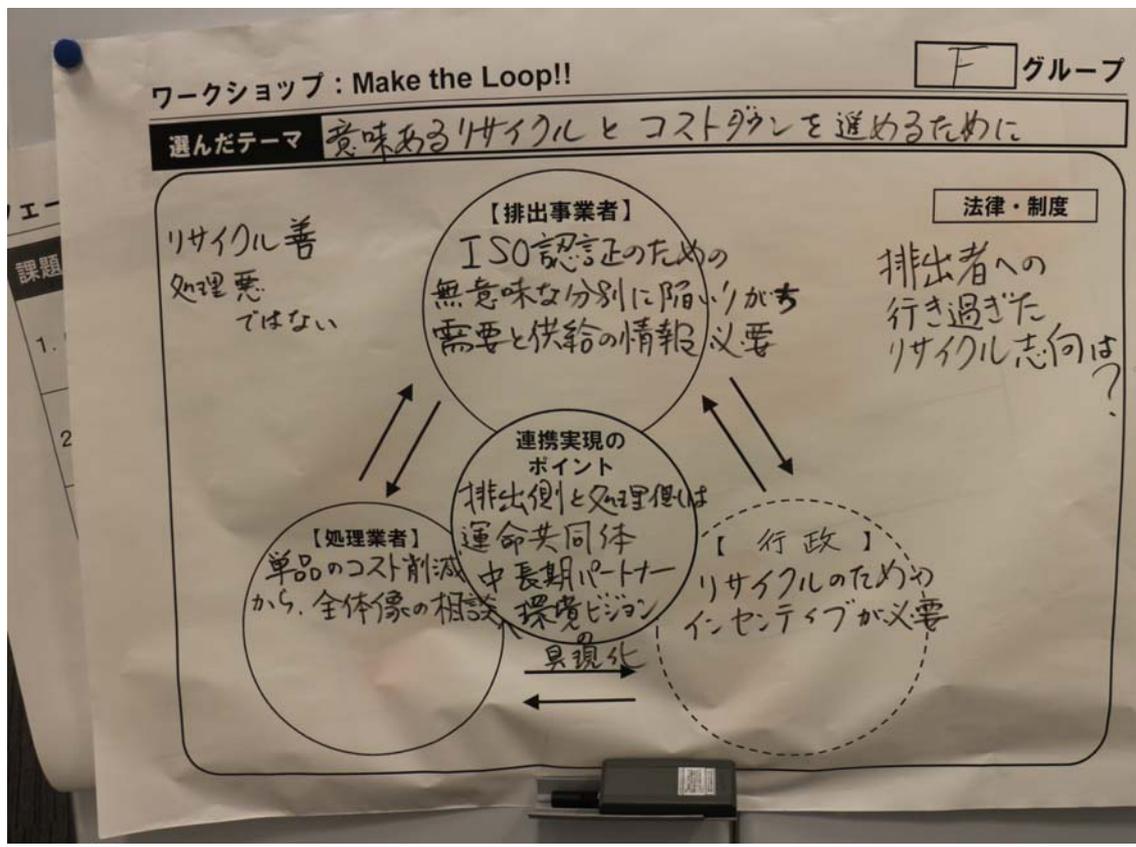


資料 4. ワークショップアウトプット (グループ発表時資料のみ)

大阪 / グループ E

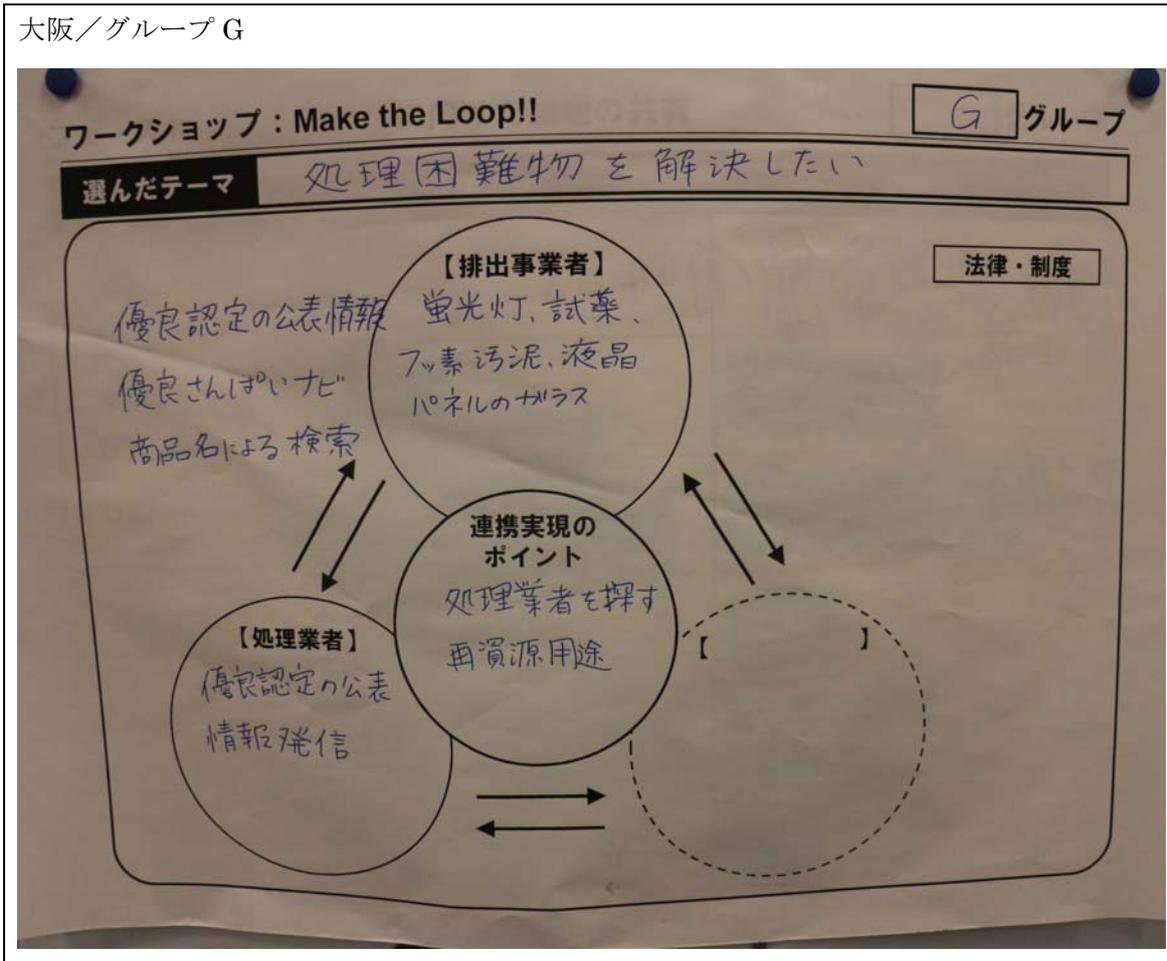


大阪 / グループ F



資料 4. ワークショップアウトプット (グループ発表時資料のみ)

大阪/グループ G



資料5. アンケート結果一覧【東京会場アンケート集計結果】

参加区分	(1) 満足度(5段階評価) (1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)				(2) 連携・協働のアイデア・気付きが得られたか?きっかけとなったか?		(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思うか?	(4) 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか?	(5) 本イベントを通じての意見・感想等	
	プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ	(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方)具体的なアイデア・気付き	(「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方)期待と異なった点				
1 排出事業者	無回答	普通	満足	無回答	そう思う	排出側の分別やコスト意識を変えていく必要を感じた。(処置業者まかせにしない)	参加したい	排出者と処理業者の意見交換はとて有意義であった。自分が広い視野を持つためにもまた参加してみたい。		
2 排出事業者	非常に満足	満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	エコセンターのような自前である程度廃棄物を処理してしまう方法の可能性。廃棄物を減らすために圧縮等の技術を業者に相談するとか。ワンストップサービスも事務処理を軽減して良いかと思う。	参加したい	排出業者と処理業者が、話ができて、前向きな学者がいて有りがたく思った。ワークショップの記録のようなものが欲しい。		
5 処理業者	非常に満足	満足	満足	非常に満足	無回答	排出事業者様の思っていること。	参加したい		そう思わない	
6 処理業者	満足	満足	満足	非常に満足	とてもそう思う	自らの行動や情報発信が十分なのか、感じ、考えることが出来た。	参加したい	ワークショップの時間がもう少しは冗ついたので長くしてください。		大変良い経験となりました。ありがとうございました。
7 処理業者	非常に満足	満足	普通	非常に満足	とてもそう思う	お互いの情報共有を行うことで、より良いリサイクルの方向性が見えるのではないかと思います。	参加したい	ディスカッション→ビジネスモデル構築	どちらも言えない	ありがとうございました。
8 排出事業者	満足	普通	普通	満足	どちらも言えない		参加したい	排出しているものと近いものを処理されている方と話し合うのが良い。分野が違うと深堀が難しい。		
9 排出事業者	無回答	満足	非常に満足	満足	どちらも言えない		参加したい	Bグループは排出事業者の業界に偏りがあったので、他の業界の方と議論したかったです。		
12 処理業者	満足	非常に満足	非常に満足	満足	どちらも言えない		参加したい	講演を短く。ワークショップ後にコミュニケーションをしたらどうか。		ワークショップの内容はどうあれ、排出業者と処理業者のコミュニケーションは必要である。今後も継続的な開催を願う。
13 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	私は業者ですので、排出者の方々の本音をお聞き出来てとても良かったです。	参加したい	排出者と処理業者の共同ワークショップはとても良いと思いました。この時間をもっと長くしても良いと思います。	とても高まった	
14 処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	コスト(費用・分別・手間)を押し付けあうのではなく、無駄なコストを削減する。	参加したい			
15 排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	業者選定以外で処理業者さんと意見交換が行え、本音でそれぞれの視点で話が出来たと思います。田中先生の講話の「本当のリサイクルとは」というのが本当そうだと思います(コストのかかるリサイクルは違う(ウソの)リサイクルだ)。遵法(社会)、リサイクル(環境)、コスト(経済)の持続可能な元、進めていく必要があると思います。	参加したい			行政の方もオブザーバーとして入られており、排出者・処理者の抱えている意見・問題点を聞いていただける場で大変良かったと思います。このような場は開いていただきたいです。担当する者や、実態を知る異なる業種間で意見交換が出来、大変勉強になったし、同じような悩みを抱えている方がいらっしゃるのを聞いて不安が和らぎました。

資料5. アンケート結果一覧【東京会場アンケート集計結果】

参加区分	(1) 満足度(5段階評価) (1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)				(2) 連携・協働のアイデア・気付きが得られたか?きっかけとなったか?		(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思うか?	(4) 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか?	(5) 本イベントを通じての意見・感想等
	プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ	(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方)具体的なアイデア・気付き	(「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方)期待と異なった点			
16 排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	処理業者としての情報発信。法を分かりやすく整備。	参加したい		
17 排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	事業として回収・分別・リサイクルを実施していた当社の場合には中間原料であるため実際は難しいが、良いと思った。ワンストップサービスは、デメリットも多いように思われた。同業他社での本当の意味での協力は作られるのかどうか。	参加したい		
18 処理業者	不満	不満	普通	不満	そう思う	リサイクルに対する問題意識で共通点があった。	参加したい		
20 処理業者	満足	普通	普通	無回答	そう思う	ざっばらんに話が出来た。	参加したい	高まった	
22 排出事業者	満足	普通	非常に満足	満足	そう思う	処理業者によるセミナー開催を実施していることを知った。処理業者側の視点からの問題点等を知ることが出来た。	参加したい		配布資料がカラーでとても見やすかった。LIXILの取組は大変すばらしい(R&Dへのフィードバックがあり、PDCAサイクルが生きている)。但し、事業部としては赤字なのが残念(事業継続性がない)。こうした取り組みを支援する法制度のバックアップが必要と感じる。
23 排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	リサイクルはコストダウンにつながる。本物のリサイクルを目指さなければならない。	参加したい		環境省の方もワークショップに入ると良いかも。
24 排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	取引の透明化(情報開示&共有、法規制によりルールを表舞台に)。日本は法規制がないと動かない・動けないという風土。	参加したい		従来にはない形式で新鮮だったので、今回のパターンで2~3回は継続すべきと思います。
26 処理業者	非常に満足	無回答	無回答	非常に満足	とてもそう思う		参加したい		
27 処理業者	満足	満足	満足	満足	どちらとも言えない		参加したい		具体的なことから。いろいろなテーマで、とにかく話し合うことが有効と思う。
28 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	無回答	ワンストップサービスの価値を再度確認できた。	参加したい		とても高まった
29 排出事業者	満足	普通	満足	満足	そう思う	情報の共有化、データベース化(処分業者)。	参加したい		有価物処分に関する情報交換。
30 排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	廃棄物でなく、有価買取、優良業者のデータベース化と公開。拡大生産者責任。リサイクル最大化と廃棄物不適正処理の重要性の経営トップへの啓発。	参加したい		行政の徹底と法整備。
31 排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	優良認定制度の推進。有価売却・買取情報。	参加したい		アマタさん、環境省さんのつながりの深さに感心しました。

資料5. アンケート結果一覧【東京会場アンケート集計結果】

参加区分	(1) 満足度(5段階評価) (1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)				(2) 連携・協働のアイデア・気付きが得られたか?きっかけとなったか?		(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思うか?	(4) 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか?	(5) 本イベントを通じての意見・感想等	
	プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ	(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方)具体的なアイデア・気付き	(「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方)期待と異なった点				
32 処理業者	非常に満足	満足	普通	普通	そう思う	優良化事業への取組。全国カバーできるような規模の拡大。情報提供の重要さ。	参加したい	ワークショップでもグループディスカッションをテーマを決め時間を長くして実施してみたい。	とても高まった	
33 処理業者	非常に満足	満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	廃棄物処理にとどまらず、「リサイクル」に関する正しい情報を排出事業者様が求めていることが理解できました。排出事業者様の排出事務やコストの軽減に繋がる活動を目指します。	参加したい	リサイクルの実現に向けた情報交換。	大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。	
34 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	排出事業者の意向等が具体的に分かった。	参加したい		とても高まった	
35 処理業者	満足	普通	満足	非常に満足	そう思う	排出事業者側の処理業者への見目を商売抜きで感じられた。	参加したい		とても高まった	ありがとうございました。
36 排出事業者	満足	普通	満足	満足	とてもそう思う	処理業者とのコミュニケーションの必要性。	参加したい			
37 排出事業者	満足	普通	普通	非常に満足	どちらとも言えない		参加したい	他業種の排出事業者との意見交換の場があって良かった。		
39 排出事業者	無回答	満足	満足	非常に満足	とてもそう思う	リサイクルとは何か?という課題について考えを新たに持つことができました。	参加したい	具体的に両者の立場を踏まえた話し合いが出来たことが新しいアイデア・共感を生むことが出来るものだと思います。	高まった	多くの業者(排出・処理)様から直接話をする事ができて、勉強ができましたこと感謝しています。
40 処理業者	無回答	満足	満足	満足	とてもそう思う	排出事業者と処理業者が直接情報交換できるネットワークの場が必要。Webサイト等。	参加したい			
41 処理業者	普通	普通	普通	満足	そう思う		参加したい			
42 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	田中先生の最後のお言葉の「リサイクルに囚われすぎでは」の一言は、新しい気付きを頂きました。	参加したい			
43 排出事業者	満足	普通	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	排出事業者と処理業者とのビジネスを離れてお互いを理解する場を定期的に設定し、コミュニケーションを図ること。	参加したい			
44 排出事業者	無回答	満足	満足	満足	そう思う	排出事業者(他社)、処分業者さん相互の意見から、コスト意識・リサイクル取組の姿が勉強になった。	参加したい			
46 処理業者	満足	満足	非常に満足	満足	そう思う	社員教育や情報交換の課題が伺えたので良かったです。参考になりました。	参加したい		高まった	
47 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	コミュニケーションが大事。	参加したい		とても高まった	

資料5. アンケート結果一覧【東京会場アンケート集計結果】

参加区分	(1) 満足度(5段階評価) (1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)				(2) 連携・協働のアイデア・気付きが得られたか?きっかけとなったか?		(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思うか?	(4) 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか?	(5) 本イベントを通じての意見・感想等
	プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ	(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方)具体的なアイデア・気付き	(「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方)期待と異なった点			
48 処理業者	非常に満足	非常に満足	満足	満足	とてもそう思う	排出者側の本音が伺えたこと。「もっとお客様の声をきくこと」をやりうと思いました。	参加したい	なかなか優良業者がお客様に選んでいただけない現状でより良い循環産業の連携を図るのであれば、お互い本音で話す場が必要だと思います。	良い業者(処理側)を育てるのは、やはり良い排出者がいなくてはいけないと思いますが、双方ともお互いがお互いを育てる信頼・連携関係の構築が必要だと痛感いたしました!
49 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う		参加したい	とても高まった	
50 排出事業者	無回答	満足	非常に満足	無回答	そう思う	優良認定業者の認定。ワンストップサービスの考え方。	参加したい		
51 排出事業者	満足	普通	満足	満足	とてもそう思う	他業界の方の取組や考え方を聞いたのがとても良かった。	参加したい	もう少し時間があると良いと思います。	
52 排出事業者	無回答	満足	満足	満足	そう思う	排出事業者と処分業・収運業の方の貴重な意見を聞くことが出来ました。お互いのことをよく知ることが問題解決の糸口になると感じました。	参加したい		
53 排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	コミュニケーションの重要性。	参加したい	高まった	
54 処理業者	満足	満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	排出先・処理先ともに高付加価値を求めていく姿勢に感銘。	参加したい	具体的な部分の話、分科会でも良いのでしっかりと協議したい。今日は時間が足りなかった。	とても高まった 大変有意義でした。また参加させてください。
55 処理業者	無回答	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	法律やコストの壁を感じているが、連携・協力する機会を設けなければならぬと気づきました。	参加したい	要望・専門分野別で深掘出来ると良い。排出者・処理業者の扱っている廃棄物が一致するグループにすると良い。	
57 処理業者	非常に満足	満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	排出事業者側の本音が聞けたこと。	参加したい	とても高まった	

資料5. アンケート結果一覧【大阪会場アンケート集計結果】

参加区分	(1) 満足度(5段階評価) (1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)				(2) 連携・協働のアイデア・気付きが得られたか?きっかけとなったか?		(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思うか?	(4) 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか?	(5) 本イベントを通じての意見・感想等	
	プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ	(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方)具体的なアイデア・気付き	(「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方)期待と異なった点				
1 排出事業者	満足	満足	普通	非常に満足	とてもそう思う	コミュニケーションの大切さ。	参加したい			
2 処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	連携の重要性を感じました。	参加したい		優良認定は申請中。	
3 処理業者	満足	満足	満足	非常に満足	どちらとも言えない		参加したい	行政と話す場が欲しい。	どちらとも言えない	
4 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	排出業者、処理業者、立場によって価値感が変わる。	参加したい	行政(許認可権限のある)も参加されると良いと思う。	とても高まった	各地区でイベントを行うと良いと思います。
5 排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	ワークショップで出た、少量品の処理方法について。	参加したい			
6 処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	排出者、処理業者の認識はかなり共有できていると感じました。	参加したい	廃棄物のリサイクルを具体的にどう進めるか?	どちらとも言えない	優良事業者のメリットがもう少し大きい方がいいと思います。
7 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	排出元、処理業者間の信頼関係を築く為にも処理業者の情報発信力が重要である。	参加したい		とても高まった	大変有意義な時間となりました。ありがとうございます。
8 処理業者	満足	無回答	普通	満足	そう思う	工場視察の有料化。	参加したい	中部(名古屋)でお願いします。		ありがとうございました。
9 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	業者からの情報発信の重要性。	参加したい		とても高まった	
10 排出事業者	満足	普通	普通	満足	そう思う	排出業者が処理業者さんへの細かい情報を報告する様になります。	参加したい	処理業者の技術報告・事例を発表してほしい。(低コスト方法、リサイクル方法、再資源化等)		
11 排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	廃棄物の性状を明確にできればコストダウンに繋がるため。	参加したい	環境省法令ガイド		
12 排出事業者	満足	無回答	普通	満足	無回答	みなさんの熱意と前向きな姿勢に、情報交換をもっと密にすることで改善できる余地はいくらでもあると感じた。	参加したい	各処理業者の得意なものの発表の場があっても良いのでは?		
13 処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う		参加したい		高まった	
14 処理業者	非常に満足	非常に満足	満足	非常に満足	そう思う	財務や排出過程など見える化し、データ化し、共有していくことが土台になる。	参加したい	もっと回数・場所を多くしてください。	高まった	お疲れ様でした。良いイベントでした。
15 処理業者	非常に満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	情報の共有の必要性。	参加したい		とても高まった	
16 処理業者	満足	普通	非常に満足	非常に満足	そう思う	処理業者の情報発信が不足している。今回の様なセミナーを自社で開催してみたい。	参加したい			
17 排出事業者	非常に満足	満足	満足	満足	とてもそう思う	やはりコミュニケーションが必要だと感じました。	参加したい	年2回くらい開催してください。		
18 排出事業者	普通	不満	満足	満足	そう思わない		参加したい	次世代の廃棄物処理の方向性。		

資料5. アンケート結果一覧【大阪会場アンケート集計結果】

参加区分	(1) 満足度(5段階評価) (1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)				(2) 連携・協働のアイデア・気付きが得られたか?きっかけとなったか?			(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思うか?	(4) 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか?	(5) 本イベントを通じての意見・感想等
	プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ	「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方) 具体的なアイデア・気付き	「「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方) 期待と異なった点	「(「参加したい」と回答した方) 具体的な要望・アイデア			
19 排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	業者の選定は専門業者をお願いすれば良いことに気付いた。		参加したい		
20 処理業者	満足	満足	満足	非常に満足	とてもそう思う	排出事業者へ中長期的な計画を共有しておくこと。コミュニケーションの強化にもつながる。		参加したい		排出事業者、処理業者、行政、コンサル側の視点で話が聞けて良かった。
21 処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	排出者サイドの本音や考えが聞けて良かったと思います。		参加したい	さらに具体的な展開を期待しています。	高まった
22 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	コスト意識が高いので高品質なリサイクルばかり追求しない選択もありえると思った。		参加したい		どちらとも言えない
23 処理業者	満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	情報・コミュニケーションの重要性。		参加したい		
24 排出事業者	満足	満足	満足	満足	とてもそう思う	双方の立場で活発に議論出来て良かったです。		参加したい	名古屋開催希望します。	
25 排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	処理業者の立場も分かり、当社の現状と照らし合わせられた。処理業者の方の話を聞く機会をまた持てたらと思います。		参加したい		
26 排出事業者	満足	無回答	満足	非常に満足	そう思う	排出者側も情報開示が進めば処理(有価)の可否が可能。		参加したい		
27 処理業者	無回答	非常に満足	非常に満足	無回答	とてもそう思う	排出事業者責任の新たな認識と協業について。		参加したい		
28 処理業者	満足	満足	普通	普通	そう思う	情報を得ていくためには営業等を通じて、またネットを通じてしか得られないと思うが、その力をアミタ様に求めていきます。		参加したい		どちらとも言えない
29 処理業者	普通	普通	普通	満足	そう思う	排出業者さんと話が出来て良かった。		参加したい	いろいろな会社の方とお話出来る。	どちらとも言えない
30 処理業者	満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	情報共有・交換の必要性(自社でも点検したい)。		参加したい	海外事業。	
31 処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	技術開発は情報共有等種々必要なことが多々あるが改めて排出者との信頼関係構築が重要と再確認しました。		参加したい		
32 処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う			参加したい		
33 排出事業者	満足	無回答	満足	非常に満足	そう思う	優良産廃ネットなどを活用し、処理業者の検索が出来ること分かりました。		参加したい	関係が深い処理業者様と同じグループでディスカッションがしたい。	

資料5. アンケート結果一覧【大阪会場アンケート集計結果】

	参加区分	(1) 満足度(5段階評価) (1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)				(2) 連携・協働のアイデア・気付きが得られたか?きっかけとなったか?		(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思うか?	(4) 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか?	(5) 本イベントを通じての意見・感想等		
		プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ	(「とても思う」「そう思う」と回答した方)具体的なアイデア・気付き	(「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方)期待と異なった点				(「参加したい」と回答した方)具体的な要望・アイデア	
34	排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とても思う	産廃ナビの活用。処理不明の試業の窓口として、保健所に問い合わせるのがいいということを知って良かった。		参加したい	排出業者として、処理業者の方とは、今のお付き合いのあるところだけで、話す機会がなかった。交流、情報交換の場は必要だと思いました。		とても良かったです。ありがとうございました。
35	排出事業者	非常に満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	情報交換という点で有意義な時間でした。排出側としても有用な情報の探し方や、同様の課題を抱えていらっしゃる企業も多いと改めて知りました。このような試みが、委託側受託側の境界を越えて形成されることを切望します。		参加したい	自社製品は消費者で購入、使用された後は家庭からの一般廃棄物として排出されます。ここにこれらを回収し、リサイクルが可能になるような仕組みを考えたいと思っています。		
36	処理業者	満足	満足	非常に満足	満足	そう思う	処理業者の情報を、思った以上に排出側が求めているということ。優良事例の内容は、色々と参考になりそうだった。		参加したい			

REPORT

環境省主催シンポジウム/ワークショップ



循環産業の新たな局面へ！ 連携と協働から考える次の一手

資源の枯渇、種々の環境問題を受け、貴重な資源としての廃棄物の循環利用が重要視されている。これを一層進め、高付加価値化を図るにはどうしたらいいのか。排出事業者と産業廃棄物処理事業者が一堂に会し、意見交換をする環境省主催のイベントが都内で開かれた。当日は「この場を、両者の連携を深める触媒にしてほしい」という、環境省 廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課の外山洋一氏のあいさつで幕が開いた。



基調講演

目指すべき 循環産業の高付加価値化

持続可能な社会の構築が世界共通の目標となっています。そのためには、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から、資源消費を抑制し環境負荷を低減する社会、つまり循環型社会への転換が求められます。循環産業は、その構築に貢献する産業です。

資源消費の抑制という目標を達成す

るために描かれているのが、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを行い、リサイクルできないもの、コストがかかり過ぎるものはエネルギー源として使い、それ以外は、埋め立てなど適正な処分を行うという流れの廃棄物マネジメントです。これを行うことで環境負荷も低減します。循環型社会には廃棄物の適正処理、3Rの推進を基本にした廃棄物マネジメントが不可欠といえます。

廃棄物処理の課題

日本の廃棄物処理は4つの課題に直面しています。大量の廃棄物が出続け



鳥取環境大学サステナビリティ研究所 所長

田中 勝 氏

ている点、3Rが不十分である点、処理施設の立地が困難である点、不法投棄がまだ続いている点。これらを解決して循環型社会を作っていくには、処理業者だけでは限界があります。排出事業者や消費者も連携し、ライフサイクルアプローチ、つまり生産から流通、消費まで、トータルで最適化を進めようという考え方が必要です。

なかでも排出事業者には、3Rしやすい商品設計や、最適な処理方法および素材に関する情報の処理業者への提供など、大きな役割が期待されています。

循環産業の高付加価値化

昨今、処理業者が提供するサービスの価値を高め、それに対して適正な金額を得るといふ、循環産業の高付加価値化の動きは高まっています。少しでも付加価値の高いサービスを提供しよう、各企業が競争している状況です。

国も次々に政策を打ち出しています。優良産廃処理業者認定制度もその一つ。昨年12月時点で674企業が認定を取得しています。認定を受けることで、同業他社との差異化、国や独

立行政法人などの入札時の案件における優遇措置など、メリットも多い。

ただし高付加価値化を進めるうえで、提供するサービスのベネフィットが排出事業者や周辺住民に、きちんと評価されなくてはなりません。サービスの内容や料金の妥当性を理解しても

らう努力が必要でしょう。

また、処理・処分という事業領域に限定しない意識改革も必要。3Rビジネスを行う企業が増えています。これも循環産業の一つの姿といえます。日本には先進的な循環技術があり、海外の資源循環に貢献できる余地はまだ

まだあるのです。

2月に男子ゴルフ米国ツアー、ウェイストマネジメントフェニックスオープンが開催されました。そのスポンサーは、米国の大手産廃企業です。日本の企業も、やがてこのようなグローバル企業に成長してほしいと願っております。

優良事例プレゼンテーション

LIXILの資源循環の高付加価値化と優良認定業者との連携について

住宅総合企業であるLIXILは、住まいづくりの全プロセスにおける環境配慮をグループの環境理念として掲げ、原材料の調達から製品の廃棄段階まで、グローバルな規模で、資源循環、自然共生を追求し活動しています。

その一つが、エコセンターの設立です。実は建築資材類はさまざまな素材で複合されているため、再資源化が難しく、多くが生かされることなく埋め立てられているという現状です。当社は、住宅建材や設備機器のメーカーで

ある以上、使用済み製品を資源化し循環させる責任があると考え、エコセンターを設立したわけです。

現在、エコセンターは全国に3拠点。その活動の目的は大きく2つあります。1点目は、メーカー自らが中間処理業者となり、廃材の収集運搬と中間処理を行うことで、リフォーム店、工事店様に安心を提供することです。

実際に、エコセンターに運び込まれたさまざまな廃棄物は、手作業で細かく分けています。そこで出た有価物は



株式会社LIXIL
プロダクションカンパニー
安全・環境統括部 廃棄物推進部 部長
横手 隆彦 氏

資源として売却し社会に還元しています。手作業での細かな分別により、有価物としての分別品種だけで50品種以上を実現しています。

2点目は、リサイクル業を通じて、

REPORT

環境省主催シンポジウム/ワークショップ

循環産業の新たな局面へ！連携と協働から考える次の一手



再資源化しやすい製品の開発を支援することです。製品の分解・分別のしやすさや、どの程度マテリアルリサイクルできるかをチェックし、開発部門にフィードバックしています。

このように再資源化を徹底し、こだわって処理することが、資源循環の高付加価値化の一つの姿ではないかと、我々は考えています。

優良事例プレゼンテーション

排出事業者と連携した“ワンストップサービス”

当社は北海道北広島市で、産業廃棄物の収集運搬と中間処理をしている会社です。昭和51年の創立当初は、自動車のエンジンオイルのリサイクルを中心に事業を行っていましたが、現在は、お客様からさまざまな廃棄物の収集運搬、中間処理を任せられるなど、廃棄物処理を弊社が窓口となり全てを行うワンストップサービスを提供しております。その経緯をご説明いたします。

十数年前、主なお客様であった自動車ディーラーさんの廃棄物の置き場は、さまざまな廃棄物が入り交じり、山のようになっていました。そこから、複数の業者が、廃プラだけ、金属くすだけと、それぞれ回収していたので、片付く間がなく、お客様にとっても廃棄物管理が非常に面倒でした。

そんな中、当社は業者の一本化を提案しました。種類ごとの容器を用意して分別しやすくし、当社が定期回収す

優良認定業者との連携

当社は排出事業者の立場として、廃棄物処理業者様との取引もしています。処理を委託するに当たっては、社内でも廃棄物処理業者委託基準を制定し、財務管理の状況、施設の防じん対策などの有無、環境規制への対応など、細かくチェックし決定します。

今後は優良認定業者に限定して連携していく方向です。実際、優良認定を取得されている業者様は、現場を熟知しており、迅速性、明確さ、職場環境の衛生面などにおいて優れた印象を持っています。

レベルの高い優良認定業者様との連携を進めていくことで、資源循環の底上げにつながれば幸いです。



環境開発工業株式会社 業務部長 渡辺 隆志 氏

る。ゴミ置き場がきれいになるだけでなく、契約書やマニフェスト(産業廃棄物管理票)も管理しやすくなるわけです。ちょうど、自動車メーカーがISOの取得などに力を入れていた時期だったこともあり、提案が受け入れられました。そして、徐々に「この清掃はどうすればいいの」「この処理を頼めないか」と、お客様からのご相談が増えました。そこで当社でできないものに関しては、当社が窓口になり協力会社に委託する形にしました。

窓口の一本化で、月ごとの廃棄物の内容、数量、リサイクル率などを、一括してお客様にご報告できます。お客様ご自身も、「事務処理がすごく楽になった」「分別するとコストが安くなる」などと実感されるようになりました。

ワンストップサービスの漸進
この関係を構築するうえで力を入れ

たのが、コミュニケーションです。排出事業者様の元に頻りに足を運び常に現場を把握し、定期的なミーティングを行っています。

当初はお客様の廃棄物に対する関心が薄く、一本化のメリットをご理解いただけなかったこともありましたが、繰り返しコミュニケーションを取り、処理の現場を見ていただくようにした結果、「安心して任せられる」と評価を得ることができました。

現在、消火器リサイクルや、油汚染土壌などのバイオ処理も展開しております。今後も、排出事業者様と一緒に新しい道を開いていきたいと思

ワークショップ
Make the Loop!!



引き続き、グループに分かれたワークショップが開催された。全体テーマは、循環の高付加価値化に向けて排出事業者と処理業者がどのように連携・協働していけばいいの、そもそも、目指すべき「循環の高付加価値化」とは？

参加したのは、資源循環に関心が高い排出企業の担当者と、優良産業処理業者もしくは認定取得を検討している処理業者ら、計約50人。いずれもそれぞれの分野のトップランナーだ。

から処理業者に頼んだほうが合理的ではないか(排出事業者)、「自治体ごと、業者ごとに基準が違う。一本化できないか(排出事業者)」、「処理にはスピードも大事。即時性は付加価値にならないか(排出事業者)」、「お客様のゼロエミッション達成のために、妥協を求められることもある(処理業者)」、「コストが適正であることを理解してもらうにはどうしたらいいか(処理業者)」、「付加価値を正しく評価してもらうためにはどうしたらいい?」(処理業者)。

「コスト」「情報」が論点に
ワークショップは、排出事業者、処理業者がほぼ同数ずつ交じった8つのグループに分かれて展開された。まず課題を出し合い、グループで話し合うべきテーマを絞り込む。「社内分別はどうあるべきか。最初

提起される課題はいずれも具体的、現実的で、同業者の大きな相づちと、異業者の気づきの声を誘っていた。その後は、グループごとに課題を絞り、それについての議論を深め、最終的には課題解決に向けたアイデアを出していくという流れだ。



「お互いのことを知るいい機会、刺激になった」と、参加者の声。

各グループの課題には、「コストとのバランス」「情報」「コミュニケーション」といったワードが目立った。一般的な排出事業者と処理業者で、資源循環の捉え方にはまだ隔たりがあり、それを埋めるための情報・コミュニケーションが求められていることの表れといえるかもしれない。

「排出事業者の表彰があってもいいのでは」「物質収支など定量データを公開することを定めてはどうか」など、さまざまなアイデアも出された。



「排出事業者と処理業者が一体となって、循環社会を作ろうという流れの議論は非常によかった」とは、各グループの発表を聞いた田中氏の総評だ。「環境省として初めての試みだったが、非常に斬新なアイデアも多かった。ヒントにしたい!」(外山氏)。「自社の問題を改善するヒントを得られた」「また、こういう機会が欲しい!」など、参加者にとっても盛り多い時間だったようだ。

「排出事業者と処理業者が信頼関係を築く一助になれたと、手応えを感じている。今後も改善しつつ、こういう場を提供していきたい」と、環境省・外山氏がイベントを締めくくった。

資料 7. 環境省ホームページ報道発表資料

「循環産業の新たな局面へ！連携と協働から考える次の一手」シンポジウム/ワークショップを開催しました。

世界的な資源制約や市場変動リスクのなかで、個別の企業においても廃棄物を貴重な資源として捉え、質の高い循環利用（循環の高付加価値化）を行う事の重要性が高まっています。

質の高い循環利用を目指すためのアプローチとして、排出事業者と優良産廃処理業者等が互いのビジネスに対する理解を深め、パートナーとしてより踏み込んだ形で連携・協働を進めていくことを目的としたシンポジウム/ワークショップ「循環産業の新たな局面へ！連携と協働から考える次の一手」を、去る2014年2月5日（水・東京）、2月14日（金・大阪）に開催しました。



本シンポジウム/ワークショップに参加したのは、資源循環に関心の高い排出事業者と優良認定を受けた産廃処理業者、及び認定取得を検討している処理業者の担当者計90名。目指すべき「循環の高付加価値化」とはどのようなものか、排出事業者と処理業者とが課題解決のためにどのように連携・協働していけばよいのかについて、講演や優良事例の紹介、参加者全員によるワークショップを通じて考えました。

冒頭、環境省 産業廃棄物課 外山洋一課長補佐による挨拶と趣旨説明に続き、第1部として鳥取環境大学特任教授・サステナビリティ研究所所長の田中 勝氏により「目指すべき循環産業の高付加価値化」というテーマで基調講演を行っていただきました。

冒頭、環境省 産業廃棄物課 外山洋一課長補佐による挨拶と趣旨説明に続き、第1部として鳥取環境大学特任教授・サステナビリティ研究所所長の田中 勝氏により「目指すべき循環産業の高付加価値化」というテーマで基調講演を行っていただきました。



第1部 基調講演

「目指すべき循環産業の高付加価値化」

鳥取環境大学特任教授・サステナビリティ研究所所長 田中 勝氏

地球には限られた資源しかない中、人類と地球環境にとって最も望ましい社会は循環型社会であり、天然資源の消費を抑える社会への転換が必要です。その中で、依然として大量の廃棄物が発生すること、3Rの取組みが不十分であること、不法投棄がなくなること、処理施設の設置が困難であることなどが、日本の廃棄物処理の問題となっています。これまでも処理業者で



は様々な課題に取り組んできましたが、処理業者だけの解決は非常に難しい。処理業者だけではなく、排出事業者から消費者までが連携して、生産から消費・処理までを見据えたトータルでの最適化に取り組んでいく必要があります。また、処理業者は「処理」という事業領域や国内展開に捉われない意識の改革も必要です。日本は循環産業について先進的技術を有しており、アジアをはじめ世界にも積極的に展開して行って欲しいと思います。

第 2 部 優良事例プレゼンテーション

(東京会場/大阪会場)

◆株式会社 LIXIL プロダクツカンパニー 安全・環境統括部 環境推進部 部長 横手睦彦氏

「LIXIL の資源循環の高付加価値化と優良産廃業者との連携について」

LIXIL は、住いの新築・リフォームから建材や住宅設備機器まで、住環境に関わる製品の製造販売を行っております。そのなかで、グループの環境方針・環境ビジョンを設定し、人びとの暮らしが地球と調和することを願い、住まいづくりのあらゆるプロセスにおいて、環境に配慮した取り組みを続けています。



現在、国内の産業廃棄物の約 20%が建設系廃棄物であり、不法投棄される廃棄物の約 75%を占めています。住宅関連製品を製造販売するメーカーとして、製品を売りっぱなしにするだけでなく、使用済み製品も責任を持って適正に処理することが使命であると考え、当社ではエコセンター（産業廃棄物中間処理施設）を全国 3 拠点で立ち上げました。中間処理業者として、リフォームにより発生する廃棄物をより再資源化しやすく処理するために、徹底的に職人の手作業により分別・分解しています。さらにエコセンターでは開発部門と連携して、製品開発の段階からリサイクル視点を導入し、将来発生する廃棄物の減量化を図るとともに再資源化がしやすい製品づくりを行っています。

また、中間処理した廃棄物の処理を委託する排出事業者の立場としては、優れた技術や仕組みを

資料 7. 環境省ホームページ報道発表資料

持つ優良産廃処理業者の皆様との連携を深め、資源循環の底上げを目指していきたいと考えています。

(東京会場)

◆環境開発工業株式会社 業務部 渡辺隆志氏

「排出事業者と連携した『ワンストップサービス』について」

環境開発工業は、産業廃棄物の収集・運搬、処分、及び再生油の製造販売を主な業務としています。当社では、顧客との連携・協働による循環の高付加価値化の取り組みとして、複数の処理先を持っている排出事業者様に対し、処理を一本化する事による環境リスク低減及び資源の有効利用促進のための提案を行っています。さらに請求書、排出量データ、リサイクル率まで、環



境業務に関する様々な情報のとりまとめと提供を行うワンストップサービスを提供しています。このように徹底してお客様の要望にお応えすることが、お客様のコストや手間を削減すると同時に、安心・安全やコンプライアンスレベルの向上に寄与するものと考えています。これらに加えて、微生物等の働きを利用するバイオレメディエーションによる土壌浄化や障害者雇用の促進など、領域を超えて価値を創出すべく様々な取り組みを展開しています。

(大阪会場)

◆帝人株式会社 高機能繊維・複合材料事業グループ 経営戦略・企画管理室 大野未央良氏

「持続可能社会の実現に向けた帝人の循環型繊維リサイクルシステム『エコサークル®』」

帝人株式会社は、ポリエステル繊維事業をはじめ幅広い事業をグローバルに展開する企業グループです。当社では様々な環境への取り組みを展開していますが、その根底には、マイナス（環境負荷）からゼロにするだけでなくプラスへの転換を目指すこと、そして、様々なステークホルダーとの有機的な連携により社会の持続性を一緒に確保していく取組みを進めていく、と



いった目的認識があります。このような目標に対する取り組みのひとつとして、当社独自の循環型リサイクルシステム「エコサークル®」があります。これはユーザー（もしくは「顧客」）から回収したポリエステル繊維製品を化学的に分解・原料にまで戻し、再度石油由来同等の繊維を

資料 7. 環境省ホームページ報道発表資料

製造するケミカルリサイクル技術により安定した品質で何度も繰り返し製品を作ることができます。当社では、商品開発から回収・再利用に至るこの仕組みを、環境意識の高い様々な企業・自治体などとの協働により構築してきました。今後も、持続可能社会の実現に向け、取り組みに共感いただける多くの皆様との連携を推進していきたいと考えます。

第3部 ワークショップ

第3部のワークショップ「Make the Loop!!」では、排出事業者・処理業者がほぼ同数ずつで構成されたグループに分かれ、各グループで選んだテーマについて各社の抱える課題の共有を行ったうえで、解決のアイデアやそれぞれの立場からどのような働きかけができるかについてディスカッション・発表を行いました。



例えばあるグループでは「意味あるリサイクルとコストダウンを進めるには」というテーマのもと話し合いが進められ、「排出事業者側では unnecessary レベルの分別をしていることもある」「単品のコスト削減からもっと全体最適の提案をすべき」「中長期的なパートナーとして互いの環境ビジョンを共有したらどうか」などの意見・アイデアが出されました。



このように多くのグループでは、コストという制約があるなかでどのように価値観を共有し、手を取り合って課題を解決していくことができるかという課題に対して、情報発信のあり方やスムーズな情報交換の仕組みなどについてそれぞれの立場から活発なディスカッションが行われました。

各グループの発表を受け、田中教授からは「排出事業者と処理業者が一体となって、循環型社会を作ろうという流れの議論は非常によかった。」とのコメントをいただいた一方で「そもそもどこまでコストをかけてリサイクルを推進すべきなのか？」という根本的な問い掛



資料 7. 環境省ホームページ報道発表資料

けもなされました。

終了後、参加者からは排出側・処理側双方の事情や課題に対する理解が深まったとの感想と併せ、今後も取り組みを継続して欲しいとの要望が多く寄せられました。環境省では、今回の結果を踏まえ、行政・排出事業者・処理業者の連携を深めるための取り組みをより一層推進して参ります。

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます。

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「A ランク」のみを用いて作製しています。